



## 第46回市美術展

市民センターで、5月13日から6月1日にかけて第46回伊万里市美術展が『写真・工芸』『絵画』『書』の3期に分けて開催されました。



↑訪れた人たちは、思い思いに作品を鑑賞しながら、作品から感じとったことなどを話していました

期間中は、各部門で公募して集まった創作意欲あふれる472点の作品が展示され、合計で983人が鑑賞に訪れました。  
絵画の部では、約30人が描いた油絵や水彩画など52点が展示され、中には縦130センチ、横160センチを超える大作もあり、訪れた人たちの目を楽しませていました。

みんなよう  
考えよう  
人権・同和問題  
No.277

このコーナーは、隔月のシリーズで掲載しています。これを手がかりに、家庭で人権・同和問題について話し合ってみましょう。

### さがすたい

●問合先 生涯学習課人権・同和教育係 ☎23-3186

自治体を書く文章は、お役

所言葉で『カタイ』『ヨミニクイ』と言われることがありますが、令和5年3月に佐賀県が制定した『全ての佐賀県民が一人一人の人権を共に認め合い、支え合う社会づくりを進める条例』には「伝えたい」「読んでほしい」という思いがあふれています。

まず前文で「佐賀県は慈（いつく）しみ合う県である」と書かれています。日本赤十字社を創設した佐野常民氏の「人の痛みに敏感になり、苦しむ人には手を差し伸べよ」という博愛の精神が示され、その具体的な方法として『さがすたい』が取り上げられています。

『さがすたい』とは「県民みんながお互いを認め合い、支え合う佐賀らしきカタチ」のことです。これを土台にして、人権問題を自分のこととして考える努力について

訴えています。

例えば『合理的配慮』の理解です。これは、障がいのある人の権利を守るための考えでしたが、いまではすべての人の「心のバリアフリー」につながるものになってきました。伊万里市が人権掲示板「じんけん通信」に掲載した一編の詩を紹介します。

### 『じんけん』

「じんけんって、なに？」  
あの子が聞いた  
「空気がたいなもの」  
そう答えた  
「身近すぎて気づかない  
でも、奪われたら  
生きていけない  
あたりまえの大切なもの」  
それが、じんけん

気付かないことに気付いていくことは、人権を守り、理解するための一歩です。

## 郷土の文化財

●問合先 生涯学習課文化財係 ☎22-1262

### 遺物余話 『旧石器人の忘れ物？』

市教育委員会は、公共事業や民間開発に伴った遺跡の発掘調査を行っています。発掘調査で出土したものの（遺物）で、ちよつと変わったものや、出土品に関係する話題を紹介します。

平成2年から3年にかけて、松浦町桃川にある大光寺遺跡を調査しました。調査の結果、石器が約2万4500点出土し、約2万5千年前の旧石器時代の石器製作跡であることがわかりました。石器の材料は、ほとんどが腰岳産黒曜石でした。

遺跡からは、50センチ×30センチの範囲に、石器に加工される前の黒曜石原石9点が集まった状態（集石）で出土しました。それぞれの大きさは約7センチ×5センチ×3センチで、重量は200グラムから370グラムまであり、多くは250グラム前後のもので



↑黒曜石原石の出土状況

す。他の遺跡の事例などから、かごか布袋の中に入っていたと思われる。旧石器時代は、動物や木の実などの食料を採集しながら移動する生活であり、大光寺遺跡も一時的なキャンプ地のような場所だったと考えられます。この原石の一群は、次の場所に移動するときに、うっかり忘れてしまった『忘れ物』なのかもしれません。